

検定協会だより

1

令和3年1月
第481号





目次

新年のご挨拶

- | | | |
|----|------------------|----------|
| 1 | 日本消防検定協会 | 理事長 高橋 淳 |
| 2 | 消防庁 | 長官 横田真二 |
| 3 | 全国消防長会 | 会長 安藤俊雄 |
| 4 | (一社) 全国消防機器協会 | 会長 橋爪 毅 |
| 5 | (一社) 日本火災報知機工業会 | 会長 金森賢治 |
| 6 | (一社) 日本消火器工業会 | 会長 遠山榮一 |
| 7 | (一社) 日本消火装置工業会 | 会長 橋爪 毅 |
| 8 | (一社) 日本消防ポンプ協会 | 会長 中島正博 |
| 9 | (一社) 日本消防放水器具工業会 | 会長 村上善一 |
| 10 | (一社) 全国避難設備工業会 | 会長 菊池 信 |
| 11 | (一社) 日本消防ホース工業会 | 会長 鷺根成行 |
| 12 | (一社) 全国消防機器販売業協会 | 理事長 白井 潔 |
| 13 | (一社) 日本消防標識工業会 | 会長 星野照生 |
| 14 | (一社) 日本消防服装・装備協会 | 会長 西川敏彦 |
| 15 | (一社) 日本内燃力発電設備協会 | 会長 平野正樹 |
| 16 | ガス警報器工業会 | 会長 高橋良典 |
| 17 | (一社) インターホン工業会 | 会長 坂田 徹 |

お知らせ

- 18 ケーブルテレビ等による住宅防火広報について
住宅防火対策推進協議会
(一財)日本防火・危機管理促進協会

25 有効期限を経過した受託評価品目

- | | | | |
|----|--------------------------------|----|--------------------------------|
| 26 | 協会通信・ISO ニュース・
業界の動き・消防庁の動き | 27 | 協会通信・ISO ニュース・
業界の動き・消防庁の動き |
| 28 | 新たに取得された型式一覧 | 30 | 検定・性能評価・受託評価数量
(令和元年12月) |

新年のご挨拶



日本消防検定協会
理事長 高橋 淳



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防関係者の皆様には、日頃から日本消防検定協会の業務につきまして格別のご理解とご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された年となりました。新たな生活様式の実践が求められ、社会経済活動は深刻な影響を受けました。新春恒例の行事等も中止、延期、規模の縮小などが行なわれています。

消防機関の皆様には、感染リスクと向き合いながら、救急活動をはじめ各種災害に対応されていますことに敬意と感謝を申し上げます。

当協会におきましても、職員の感染防止対策を徹底するとともに、消防機器業の皆様と連携し、検定、評価等に支障が生じないように努めております。

コロナ禍にあっても、大規模地震などの自然災害はもとより、日々発生している火災等への対応に万全を期し、人命の安全と被害の軽減に取り組んでいく必要があります。

住宅火災における死傷者の低減に不可欠な住宅用防災警報器が、全ての住宅に設置義務化されてからまもなく10年が経過し、電池切れや本体内部の電子部品の劣化も懸念されています。

当協会といたしましても、消防庁をはじめ、消防機関、消防関係団体、関係工業会の皆様と連携し、住宅用防災警報器の更なる設置促進、適正な維持管理、住警器本体の交換の必要性等について広く情報の提供に努めるなど、住宅防火対策に積極的に寄与してまいります。

また、社会経済情勢の変化や多様化する災害事象を踏まえながら、当協会の有する消防用機械器具等の専門的な知識・技術を生かし、試験設備の充実や職員の資質向上に取り組むとともに、試験検査業務の適正な推進と信頼性の一層の向上に努めてまいります。

消防機関をはじめ関係業界の皆様には、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご発展、本年が新型コロナウイルス感染症を克服するとともに、災害の少ない平穏な年となりますことを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



消 防 庁
長官 横田 真二



令和3年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などに御尽力いただいております。心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルスが感染拡大する中、救急隊員をはじめ消防職団員の皆様には、感染の危険を顧みず最前線で御尽力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

昨年は、7月豪雨や台風による自然災害に見舞われ、多くの方々が犠牲になりました。お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

災害現場においては、被災地の消防本部や地元消防団はもとより、被災状況により県内消防応援隊や緊急消防援助隊も総力を挙げて救急・救助活動等に当たっていただき、多くの人命を救助していただきました。改めて皆さんの御活躍・御尽力に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

年々激しさを増す風水害や、今後発生が危惧される首都直下地震、南海トラフ地震の大規模災害に備え、消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化をはじめ、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の更なる充実強化、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の整備など、消防防災行政の一層の推進に取り組んでまいります。とりわけ、消防団員の処遇改善については、団員の報酬や出勤手当の額の引上げを要請するとともに、検討会を立ち上げ、精力的に取り組んでまいります。

また、消防防災分野におけるデジタル化・スマート化を進め、大規模災害時における情報収集の効率化や各種手続きの電子化を図ることで、自治体の消防防災業務の合理化・効率化及び国民の皆様各種申請の簡素化を推し進めてまいります。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となりましたが、本年の開催に向けて安心・安全対策に引き続き取り組み、消防・救急体制を万全に整えてまいります。皆様方におかれましては、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりとそれを支える我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展のため、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



全 国 消 防 長 会
会 長 安 藤 俊 雄

輝かしい令和3年の新春を迎え、全国の消防防災関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

高橋理事長をはじめ、日本消防検定協会の皆様におかれましては、消防用機械器具等の検定業務、性能評価業務、調査・研究等、多岐にわたる業務を通じて、消防行政の円滑な推進に多大なるご協力を賜り、深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により我が国においても多数の感染者が発生し、日常生活をはじめ消防行政にも今なお様々な影響が出ております。

また、令和2年7月豪雨や令和2年台風第10号により九州地方を中心に甚大な被害が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

全国の火災件数と住宅火災による死者数は、近年、減少傾向にありますが、住宅火災における死者のうち65歳以上の高齢者の占める割合が依然として高い状態にあり、今後、一層の高齢化の進展に伴い更なる増加が危惧されております。そのような中、住宅用火災警報器の設置率の向上はもとより、定期的な作動確認など、適切な維持管理を推進することが極めて重要です。

全国消防長会といたしましては、地域住民が安心して暮らせる社会の実現のために、全国の消防防災関係機関との連携をより緊密にし、防火・防災安全対策や住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進をはじめとした住宅防火安全対策などを積極的に推進してまいります。

さて、本年は、昨年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会という国際的な大規模行事が開催されます。関係する消防本部では、競技会場などの火災予防やテロ災害を念頭においた警戒体制の強化はもとより、新型コロナウイルス感染症対策にも配慮した万全な災害対応体制で臨んでまいりますので、皆様方におかれましても、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日本消防検定協会の益々のご発展と、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますことを心からご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶

NFES

一般社団法人 全国消防機器協会
会長 橋 爪 毅



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに消防関係機関・団体の皆様には、当機器協会会員団体・企業等が格別のご高配を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年から全世界を震撼させています新型コロナウイルスは、感染拡大から1年が経過していますが、まだ収束の気配が見えません。

この間、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の観点から東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、人々が集うあらゆる催し物、行事、会議会合などが中止や延期等を余儀なくされています。さらに社会・経済活動や生活様式にも、常に新型コロナウイルス感染症対策等を念頭においた行動・活動が求められ、今までの生活環境が一変しています。今後、ワクチン等の開発普及がされ、収束することを待望しております。

これらの影響は、我々消防機器業界にも及んでおり、個々の企業により違いはあるものの、総じて厳しい局面にあります。

一方、昨今の災害状況は、新型コロナウイルスの影響下、火災のみでなく、甚大化、広域化する台風、集中豪雨などの自然災害が増加しております。我々、消防機器業界としても、AI・IoT等や新素材・新技術を活用しての消防機器開発に加えて、自然災害などの減災・防災に資する技術開発と普及に努め、国家の安寧と社会の安全の確保に、いささかなりとも貢献できるよう取り組む所存です。

また、平成24年度から日本消防検定協会の業務委託と併せ実施しています、消防機器等に関する情報提供業務は、消防予防行政の最新の話題や消防機器等に関する情報等を、会員団体・企業等に提供し、大変ご好評をいただいております。今後も消防機器業界の充実・発展のため継続的に実施してゆきたいと考えております。

引き続き、私ども消防機器業界に対しまして、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本火災報知機工業会
会長 金 森 賢 治



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、日本消防検定協会様をはじめ、消防関係機関・団体等の皆様には、当工業会会員各社に格別のご理解とご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、新型コロナウイルスによる感染症の世界規模でのパンデミックにより、国内においても1月に初めての感染者が確認されて以来、全国各地に広まり、国民生活やあらゆる事業活動に影響をもたらしました。

4月には内閣総理大臣による緊急事態宣言が発令されるなど、活動の自粛や制限、新しい生活様式の見直しなど様々な感染予防対策が講じられてきたところであり、かつてないコロナ禍による特異な1年でありました。

こうしたなか、感染予防と経済活動の両立が求められておりますが、依然として感染が続き、その長期化と経済への影響が懸念される所です。

当工業会としましては、三密回避はもとより在宅テレワークやリモート会議の導入など感染予防に配慮しつつ、着実な事業運営に努めている所であり、とりわけ、平成18年の設置義務化から今年で15年が経過しようとしている住宅用火災警報器について、経年使用の劣化による電池切れや故障警報等の問い合わせも増えてきており、誰にも分かり易い「交換診断シート」や「設置・交換ガイドブック」を作成し、その交換を促進するため全国の消防本部等にサンプル配付させていただくなど、広く活用を呼び掛けている所です。

また、当工業会「ホームページ」の全面リニューアルや「自動火災報知設備・ガス漏れ火災警報設備工事基準書」の改訂版の発刊等により、火災報知設備や光警報装置等のさらなる普及・点検維持管理等にも注力している所です。

当工業会としましては、引き続き社会の安全・安心に寄与できるよう微力ながら努めてまいり所存でありますので、本年も当工業会会員各社への変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が収まり、日本消防検定協会様をはじめ、関係機関・団体等の皆様にとりまして、輝かしい年になりますよう益々のご発展とご家族ともどもご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消火器工業会
会長 遠山 榮一



新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

旧年中は日本消防検定協会をはじめ総務省消防庁、消防関係機関の皆様、並びに関係各位より当工業会ならびに会員各社への温かいご指導とご厚誼を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、この度、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年前半は、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界中に拡大し、日本国内でも首都圏を中心に全国に感染が拡大しました。WHOは3月に世界の感染拡大状況は、「パンデミック」の状況であると宣言し、日本政府も4月に「緊急事態宣言」を発出しました。具体的には出入国の制限、不要不急の外出、越境移動、イベント開催・経済活動等の自粛、長期休校など、三密回避の行動が求められ、これらにより社会経済及び国民生活に多大な影響を及ぼすこととなりました。

後半は、経済再生と翌年に延期された東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、人の往来、大規模イベント開催等に向けて、これまでの規制・自粛を緩和する動きもありましたが、冬季の乾燥期を迎え、連日、全国的に感染者数の急増が伝えられ、未だ予断を許さない状況が継続しております。

消防防災に関する出来事としては、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で集中豪雨「令和2年7月豪雨」が発生し、河川の氾濫と洪水によって建物・家屋の浸水や多数の犠牲者を出した大災害となりました。また、この災害においてもコロナ禍の影響で猛暑の中、いわゆる三密回避が課題として残った事案でありました。

このように、昨年を振り返りますと、自然災害の減少はありましたが、特筆すべきは、コロナ禍に始まりコロナ禍に見舞われた一年であったということです。本年は、国内はもとより世界がコロナ禍収束へ向かう年となりますことを切に願う次第です。

消防行政関係においては、旧規格消火器の設置特例期間終了が残り1年に迫っていることから、新規格適合品との速やかな交換と不要となった消火器のリサイクルの促進を、消防関係機関の皆様と連携し推進してまいります。更に、業界の自主基準製品として消火性能を向上した「高性能型消火器」の普及促進に取り組み、社会の安全・安心に向けて尽力いたします。

当工業会は、本年、創立60周年を迎えることから心も新たに、ユーザーの目線に立った安全・安心な製品の開発に努め、会員一同が更なる品質の維持向上に取り組んでいく所存ですので、関係各位のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

結びに、日本消防検定協会をはじめ消防関係機関の皆様のご健勝とますますのご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消火装置工業会
会長 橋 爪 毅



令和3年の新春を迎え、皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、各消防関係機関の皆様には、一方ならぬご厚情を賜り誠にありがとうございました。

本年も引き続き、消防防災分野の発展を目指し努力を致す所存でございますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年は、中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症の急速な流行拡大は、全世界で緊急対応を要する重大な危機となりました。

1月に神奈川県で初めて罹患を確認してから感染症が全国に拡大し、健康、生命を脅かされるとともに、生活様式や業務形態を一遍する事態となりました。

いまだコロナ禍の出口が見えていない状況は、世界経済の急激な減速を招き、企業活動に大きな影響を与え、その動向に注視しなければならない大変な年でありました。

罹患された多くの方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い回復、心の安寧を願ってやみません。

さて、昨年の工業会活動を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの事業や行事が中止を余儀なくされました。そのなかでも従前からの事業に加え、「講習会等への講師派遣」、「住宅防火対策推進協議会関係事業における住宅用スプリンクラー等の啓発活動」、防災事業に携わる方々の意識向上、技術レベル向上への後方支援をさせていただきました。

今後とも、各消防関係機関の皆様のお力添えを頂きながら、会員一同、新型コロナウイルス感染症に負けることなく、積極的に感染対策を行いより活発な工業会活動を通して公益性を維持しつつ、会員サービス事業と両立させ、業界を代表する団体として社会の安心・安全と国家の安寧に貢献できますよう、各事業の充実化に努めて参りたいと考えております。

「フッ素等消火薬剤の課題」、「“進化する火災”に対応する消火装置のあり方に関する課題」に正面から対峙して参りたく考えております。

結びに、日本消防検定協会様を初め、各消防関係機関の皆様のみずみずのご発展とご健勝を祈念致して、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も何とぞ宜しく願い申し上げます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防ポンプ協会
会長 中島正博



令和3年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

日本消防検定協会様をはじめ、消防関係の皆様には平素より当協会の運営につきまして格別のご理解、ご高配を賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

日本国内のみならず、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の気配もありません。また、「令和2年7月豪雨」では、ほぼ1ヶ月にわたり九州地方、中部地方、東北地方と日本全土に被害をもたらす自然災害となりました。罹患された皆様、被災された皆様にお見舞い申し上げ、1日も早い罹患された皆様の回復、被災地の復興・復旧をお祈りすると共に、医療従事者をはじめとする関係の皆様にご感謝申し上げます。

さて、昨年の消防自動車および小型動力ポンプの総需要台数につきましては、ほぼ例年通りでございました。しかしながら、緊急事態宣言や新型コロナウイルス感染予防への対応は、当協会会員各社の製造工程に影響を及ぼしており、現在は各社急ピッチで製造を進めているところでございます。1月から3月は、例年通り出荷台数が増加する見込みですが、消防力の強化に寄与できる高品質な製品を製造して参る所存でございます。

近年の消防車両等の製作は、過去と比較して艱装の複雑化や発注時期の集中、シャシのモデルチェンジに伴う再設計などにより、時間を要する傾向にございます。これを受けて一昨年に消防庁から契約の早期化、適切な納期の設定等に係る通知が発出され、一部の消防機関の皆様におかれましては、早期発注や発注翌年度の受け取りといった対応をしていただいております。この場をお借りして、ご協力に御礼申し上げます。

しかしながら、現状ではこれらが全体の製造に影響するまでには至っていないため、当協会といたしましては、引き続き消防機関各位へご協力をお願いをさせていただくと共に、政府が推進する働き方改革関連法を守りながら、また、感染予防対策を十分に取しながら、消防車両等の供給に影響しないよう関係省庁の皆様のお知恵をお借りして、適切に対処して参る所存でございます。

結びに、当協会会員一同、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本消防検定協会様をはじめ、各関係機関の皆様にとりまして本年が輝かしい年になりますよう、ますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防放水器具工業会
会長 村上 善一



新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は皆様にたいへんお世話になりました。ここに感謝申し上げますとともに、本年も関係業界の皆様には引き続きご指導ご鞭撻を頂けますようお願いいたします。

昨年は、新型コロナウイルスに始まり、一年中ウイルスに翻弄された年でした。世界中が感染拡大防止に多大な力を注ぎました。消防関連団体や多くの企業も、イベントの縮小や中止が相次ぎ、本工業会でも、総会の縮小開催や臨時総会の中止、委員会の活動停止などを余儀なくされました。日本と参加国のそれぞれが知恵を出し合って、1年遅れとなった東京オリンピック2020が無事開催されることを祈っております。

今年3月で東日本大震災から10年となり、その怖さを再確認するとともに、東海や南海の大地震が予想されるなどそれらの対策が急がれるところです。「まさかこんなことが起こるとは、」と思った事例も多いのかと思います。これには常日頃の訓練が大切で、訓練していなかったことは災害時にもできません。消火栓の操作方法につきましても同様と思われまます。

さて、本工業会では大型倉庫等の大規模火災を契機に、一般財団法人日本消防安全センターからの研究助成を受け屋外消火栓の機能向上を研究しております。初期消火として簡単に操作できるように、使用者がパニック状態に陥っても簡単に手順通りに使用できるように、また繰り返しの訓練にも収納しやすい装置への改善が必要であると思っております。

また、私ども工業会は、一般社団法人日本消防ホース工業会と密接に連携を取り、昨年までに保形ホースの物性面での劣化調査を行って来ました。本年はさらに研究を前進させ保形ホースの現場での点検方法の具体策とそれらの方案によるサンプリング調査に力を注いで行きたいと考えています。検定品ホースの交換時期の啓蒙活動も含め、引き続きこれらの対応に努めて行く所存です。

終わりに関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 全国避難設備工業会
会長 菊池 信



新年あけましておめでとうございます。

令和3年の新春を寿ぎ、一般社団法人全国避難設備工業会を代表いたしまして、心からお祝辞申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁様を始め各関係消防機関の皆様、報道関係の皆様方には、当工業会及び会員各社に、御指導、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は世界中に蔓延している新型コロナウイルスによって、社会生活や経済活動が制限され、苦難の年となりました。外出の自粛等に伴い、建築工事の中断、メンテナンスの延期など当初の活動が様々に阻まれ、また各種催し物なども軒並み中止となるなど、経験したことのない状況が続きました。さらに、自然災害も猛威をふるい、令和2年7月豪雨では特に九州地方で、多数の方が亡くなられ、家屋が破壊されるなど被害が集中いたしました。被害に遭われた方々には衷心よりお見舞い申し上げます。新しい生活様式が叫ばれている今、災害に備える行動は別立てで考えていくことも重要だと思われま

す。火災に関しては大きな火災こそありませんでしたが、テレワークなどで在宅することが増え、いままで避難器具の設置を要しなかった、一般住宅の火災時の避難器具のあり方について考える必要性が出てきました。また、避難誘導に対する考え方を更に深く研究する必要もあり、避難器具製造者としての責務は大きいと感じます。工業会では一人でも多くの命が救えるように器具の改良や新しい器具の開発など、引き続き行っていきたいと考えております。

さて、避難器具は現行では鉄筋コンクリート造の防火対象物についての設置が主となっております。しかしながら昨今増加している木造の防火対象物については、設置基準のうち、固定部の取付方法について明確な基準がなく、各所で苦慮しているということを知り及んでおります。本年は、木造建築に避難器具を確実に設置できるような固定方法を模索し、基準策定を各関係機関に働きかけたいと考えております。

東京オリンピック・パラリンピックもコロナウイルスにより順延となりました。外国からの訪問者について、現状では増加を見込むのは厳しいのではないかと考えられますが、昨年に引き続き音声による操作方法の伝達に取り組み、展開していきたいと考えております。さらに、点検・訓練時の不注意な取扱による事故を根絶させるべく、取扱説明をよりわかりやすく、また簡便にすべく努力を工業会会員一同努力してまいります。

依然猛威をふるうコロナウイルスですが、人類は数々の伝染病に打ち勝ってきました。今回も打ち勝つことを信じ、通常の経済活動が再開されることを祈念し、また本年も、関係行政機関及び消防関係業界の皆様、並びに会員各位が御健勝で、ますますの御発展、御繁栄されますことを祈念いたしますとともに、当工業会に引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防ホース工業会
会長 鷺 根 成 行

令和3年の新春を迎え、皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、日本消防検定協会をはじめとして総務省消防庁、各消防関係機関の皆様ならびに関係各社より当工業会の運営につきまして、ひとかたならぬご指導、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界規模での感染拡大（パンデミック）により、世界的に緊急対応策が急務の状況となりました。わが国においても感染拡大防止のため2020年東京オリンピック・パラリンピックの延期をはじめとするイベント・スポーツの自粛や学校の臨時休校、経済活動の縮小などの措置がとられ、都市部などで更なる感染拡大の傾向の兆候がでてきたことから、日本政府により緊急事態宣言が発令されました。さらに7月には西日本や東海を中心に豪雨災害が発生し、河川の氾濫、土砂の崩落、施設の倒壊など甚大な被害が相次ぎました。コロナ禍に加え、災害に対する国民の恐怖心が増大しており、地震発生への危惧等も含め、災害に強いインフラの整備や災害発生後の早期復旧策等、国民の安全、安心をまもる消防・防災体制のさらなる強化の必要性を強く感じる年となりました。

このような中、当工業会の役割もさらに増大していると感じております。

阪神・淡路大震災の消火活動で判ったように、大規模災害時には同時多発する火災に対応するため、消防隊は敷設したホースを撤収することなく次の火災現場へ転戦しなければならず、消防ホースが大量に不足した経験等を踏まえて、震災対策用備蓄ホースの必要性について啓蒙活動を行っていく所存でございます。

また、消火栓用検定品保形ホースの2027年問題（検定品使用失効）について、各関係機関と連携をとりながら、経年劣化を判別するため15年から20年を経過した市場に流通している既設保形ホースの試料を採取し、劣化状態分析を行うとともに保形ホースの経年劣化に対応した点検基準作りならびに点検方法などの策定に取り組んでまいります。

最後になりましたが、本年も日本消防検定協会の皆様をはじめ総務省消防庁ならびに消防行政各位の益々のご発展、ご活躍を祈念し、あわせて引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 全国消防機器販売業協会
理事長 白 井 潔



令和3年の新年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年は総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに全国の消防関係団体の皆様には日頃より当協会及び協会会員に対しましてご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、去年は2月に横浜港に豪華クルーズ船が寄港してから国内外が新型コロナウイルス感染症関連のニュースで明け暮れた1年でした。まだまだ先は見えませんが、一日も早い収束を祈るばかりです。

7月には九州を中心に豪雨で氾濫した主要河川が200を超え、住宅被害は1万7千棟余りになりました。また、梅雨前線が異例の長期間にわたり停滞し中四国や中部などでも記録的大雨をもたらしました。この数年に繰り返される豪雨災害は、またもや地域の風水害対策に対して大きな警鐘を発信した一年になってしまいました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

特別措置法における緊急事態宣言下では、先ず定時総会が書面開催となり、委員会等も見送らざるを得なくなりました。10月に仙台市にて予定していた「全消販合同会議」も延期し、本年仙台市にて実施することにしました。

点検業務を行う事業所が主体となっている全国で唯一の団体である全消販は、平成6年にいち早く協会内に優良な点検業務実施者の発掘と資質の向上を図るため「優良事業所認定」を行い、会員の適正な点検業務を通じて消防用設備等の維持管理の確保に励んでまいりました。しかし、コロナ禍における消防設備等の点検業務においては、報告・届出、地域事情に応じた安全対策措置対応等で大変な経験をしました。

全消販は、消費者に最も近い立場から、多様化する社会環境において消防機器の設置、設備点検等の重要性の啓発活動を展開すると共に、「身近な生活における安心・安全の確保」について協会会員が一致協力して地域の発展に積極的に対応する所存です。

本年も、総務省消防庁をはじめ日本消防検定協会、消防行政関係並びに消防防災関係団体各位の力強いご支援を心よりお願いする次第です。年頭にあたり関係各位及び会員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防標識工業会
会長 星野 照生



令和3年新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスによるパンデミックが発生し、今なお全世界に猛威を振るっております。先進諸国での研究とワクチン・治療薬の開発が急ピッチで進んでおりますが、まだまだ楽観的になれずしております。

この状況下、私ども日本消防標識工業会も、リモート会議を活用し、電話・メール等々の通信手段を駆使し、平常通りの活動を何とか維持しております。このように困難な状況下ではございますが、本年も会員一同心を新たに、今後とも消防行政に協力し、業界の発展に寄与すべく努力して行く所存でございます。本年も消防検定協会、消防設備安全センターをはじめ関係各機関に協力し、全国消防機器協会の一員として精励努力致しますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

一方で、自然災害は待った無しに襲い来るものであります。昨年は度々の大型台風襲来がありましたが、幸いにもかろうじて本土直撃をまぬがれる幸運に恵まれました。しかし地球規模の気候温暖化が進行する現在、超大型台風や線状降水帯による集中豪雨に対する備えは特に重要と思われまます。更には、コロナパンデミック下ではございますが、火災等の災害、地震等の自然災害に対する備えも、万全の体制が求められております。

当工業会と致しましては、これら各種の災害に対処すべく、今後とも消防・防災行政に協力し、国民の皆様の安全・防災に少しでもお役に立てますよう、製品の開発・改良・普及に努め、防火防災行政に一層の協力を致す所存でございます。

今年は1年延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催される方向で準備が進められております。新型コロナへの対策次第ではありましようが、開催される可能性が高いものと考えられます。

当工業会と致しても、消火器標識に図記号（ピクトグラム）を採用し、自主認定基準に準じた材料・工程で製造した製品を「推奨品」として用意し、各方面に採用をお願いしております。特に中輝度蓄光式の「図記号入り消火器標識」は、いざと言う際に効果的にその役目を果たすものと考えております。

当工業会会員企業が生産する「蓄光式避難口誘導標識（消防設備安全センター認証品）」や「蓄光式消火器標識（図記号入り・当工業会推奨品）」は災害発生時の被害拡大を抑制するため有効な手段であります。これらの普及に努めるとともに、更により良き製品の開発・普及に努力いたして行きますので、本年も一層のご指導・ご鞭撻を皆様へお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防服装・装備協会
会長 西川 敏彦




令和3年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会及び各消防関係機関・団体の皆様には、平素より当協会の運営並びに会員各社へのご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスに振り回された1年だったのではないのでしょうか。また、感染防止対策として、三密の防止、ソーシャルディスタンスの確保とか、テレワークなどと言った言葉が良く使われ、生活様式も変化し始めてきているのではないのでしょうか。

このような中で、全国の消防消防職員・団員の皆様には、感染危険がある中での救急救助活動や各種警戒活動などに従事して頂き、本当に頭が下がる思いです。くれぐれも感染防護体制を十分確保された上で、消防活動に従事して頂きたいと願っております。

当協会は、火災などの災害現場で、消火活動等に従事される消防職員・団員の皆様が装着する防火衣、活動服、防火帽、防火靴及び防火手袋等の製造・販売等を行う会員から構成されていますので、感染防護衣やマスクなどの製造も行っており、微力ながら新型コロナウイルス感染防止対策のお手伝いをさせて頂いております（昨年当協会のホームページを作成しました。URL:<https://www.jfce.or.jp>）。

今後も、消防職員・団員の皆様が、災害現場で安全かつ迅速に活動するためには、これらの消防服装・装備製品が火災等の輻射熱への耐熱性や防水性に優れ、ウイルスなどからの感染を防止するとともに、着心地や柔軟性等も確保しなければなりません。そのため、当協会では、市販の防火服等がISO基準及び総務省消防庁が定めたガイドライン基準を満足しているかの自主管理制度を構築し、当該基準を満足していると認められた防火服等には認定マークを表示することが出来ることとしております。

当協会としましては、本年も引き続き、安全・安心な消防服装・装備製品の品質の確保に努め、特に本年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年であり、多くの選手や外国人の方が日本を訪れるため、そうした方々の安全・安心も確保できるよう会員一同が更なる品質の向上に取り組んでいく所存でございます。

結びに、日本消防検定協会をはじめ消防関係機関の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本内燃力発電設備協会
会長 平野 正樹



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。消防関係者の皆様には、日頃から当協会の業務につきまして格別のご理解とご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

新しい年を迎え、当協会会員一同、心を新たに、自家発電設備の信頼性及び安全性の向上に取り組み、社会の安心に寄与するとともに、自家発電設備の適切な供給及び保全の推進に努めてまいります。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスの世界的かつ歴史的な感染拡大に伴い、生活様式や経済活動の転換を余儀なくされました。マスクの着用やテレワーク、オンライン会議などが当たり前になり、アフターコロナ、コロナ対策を踏まえた日常が定着しました。

次に、昨年の国内における災害状況を顧みますと、豪雨による災害が昨年も発生した年でした。「令和2年7月豪雨」と命名された熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨は記憶に新しいと思います。気象庁が命名した災害は5年連続ということで、私たちの安全を脅かす災害は後を絶たない状況が続いております。被災後の復旧作業、消防防災等の活動の任に懸命に当たっておられる消防関係者の皆様には、深く感謝を申し上げますと共に敬意を表します。

本年が災害の少ない穏やかな年となりますことを切に願う次第であります。

なお、停電を伴う災害時における自家発電設備にあっては着実に始動し、非常電源としての役割を果たしていることが報告されており、当協会としては、災害対応能力の強化のために自家発電設備の更なる普及促進、導入容量の拡大に努めたいと思います。

いまだコロナ問題が終息をみない状況で先行きが見通せない状況が続きますが、引き続き、各事業のさらなる充実を図りますとともに、時代の変化に的確に対応した積極的な事業展開に努めてまいりますので、皆様の一層のご支援、ご理解をお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍という異常事態の中においても皆さまが明るい未来へ希望がもてる日常をできる限り早く取り戻されることを心からお祈り申し上げますとともに、貴協会をはじめ消防関係機関の皆様のご健勝とますますのご発展を祈念し、新年のご挨拶といたします。

検定協会だより 令和3年1月

新年のご挨拶



ガス警報器工業会
会長 高橋良典



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

ガス警報器工業会を代表して、ご挨拶申し上げます。

旧年中は全国のごガス事業者の皆様、消防関係の皆様には、ガス警報器・CO警報器等の普及促進に向けて、格別なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

家庭用ガス警報器は、1969年（昭和44年）2月に、世界で初めて半導体式センサを用いたLPガス警報器が誕生し、本格的な普及が始まりました。その後、都市ガス用警報器やCO警報器等が開発され、現在は、ガス消費世帯数の約55%で警報器が使用されています。また、近年では、CO中毒事故防止のための業務用換気警報器や利便性向上を狙いとした電池式ガス警報器も開発されています。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症が全世界に広がり、日本国内に於いても緊急事態宣言が発令されるなど、大きな社会問題となりました。いまだ収束の目途は立っていない状況ではありますが、全世界、全人類が結束してこの未曾有の危機を乗り越えなくてはならないと思っております。

一方、国内では令和2年7月に福島県郡山市でガス爆発と思われる重大な事故が発生してしまいました。この事故で、関係者におかれましては、今一度、日常における保安確保の重要性を認識する機会になったのではないかと考えております。

近年のガス事故の発生件数は、この40年間で着実に減少して参りました。これは官民が一体となって保安推進活動を進め、ガス警報器等の安全機器普及に努めた結果であると思えます。しかしながら、最近では業務用厨房等でのCO中毒事故が継続して発生しており、加えて、消費者起因による事故も高止まり傾向となっています。多くのガス事故はガス警報器、CO警報器が未設置のところで起きていると言われておりますので、引き続きガス事故防止に向け警報器の普及活動に取り組んで参りたいと思えます。

また、CO検知機能を有した住宅用火災CO警報器では、火災の種類によっては早期に火災を検知できる可能性があり、被害防止の効果が見込まれます。これら付加的な機能を併せ持つ機器の普及を通じて、火災死亡事故の減少に貢献して参りたいと考えております。

弊工業会は、ガス警報器、火災警報器が国民の安全・安心の一助となるよう、さらなる普及を図り、ガス事故や火災の撲滅に寄与して参りたいと考えております。

今年も「ついていて当たり前」の文化の構築を目標に、ガス警報器工業会の事業推進に対し倍旧のご支援、ご指導を引き続き頂きますよう心からお願いを申し上げます。

新年のご挨拶



一般社団法人 インターホン工業会
会長 坂田 徹



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会及び関係各消防機関の皆様には、当工業会並びに会員各社が格別のご指導・ご高配を賜り心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、甚大化する自然災害の脅威に加え、新型コロナウイルスの発生という想定外の事態に見舞われた1年となりました。1月16日に国内最初の感染が発生して以降、緊急事態宣言の発令や、第2波・第3波と呼ばれるまでの拡大など、ほぼ1年間を経過しても収まる気配を見せておりません。

新型コロナウイルスの感染拡大は、国民の健康だけでなく、生活の全局面に多大な影響を与え続けています。現時点では抜本的な解決がなされておらず、当面「with コロナ」を前提にした暮らし方が続くと言われます。

また、就業形態におきましては、テレワークの利用者・実施率が増加し、「在宅勤務」も定着してきており、日常生活では、インターネット利用による宅配や食事のデリバリーといった巣ごもり消費の需要が、大きく伸びてきている状況となっております。

当工業会では、従来より推進致しておりますインターホン高機能化による防災・防犯へのお役立ちとともに、コロナ禍での利便性をより高める活動を訴求してまいります。併せまして、消防庁より発出されました「屋外警報装置等の技術基準ガイドライン」に基づきまして、屋外警報装置等の普及促進に取組み、「安全」「安心」「つながり」のある社会の実現に向けて邁進してまいります。

本年も、私どもインターホン業界に対しまして、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和3年1月

ケーブルテレビ等による住宅防火広報 について

住宅防火対策推進協議会 (一財)日本防火・危機管理促進協会

住宅防火対策推進協議会では、高齢者等の生命、身体の火災からの保護、家庭の防火上の安全性を向上させることを目的とする対策（住宅防火対策）を推進するため、地方のケーブルテレビ局とタイアップして、住宅防火を啓発するテレビ番組を制作し、後日地域の地域で放映して住宅防火広報を行う「ケーブルテレビ等による住宅防火広報事業」を行っています。

番組は、「地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策」をテーマに消防本部の訓練や車両や地域の婦人防火クラブの火災予防活動、住宅用防災機器の紹介を行っています。

◎千葉県八千代市消防本部「春の火災予防広報」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、令和2年2月22日（土）に予定されていた大型商業施設における大規模イベントの開催が困難となったことから、八千代市東消防署において、消防隊訓練や特別救助隊訓練などを取り入れた「春の火災予防広報」の撮影を行い放映しました。

オープニングは、田中且士八千代市東消防署長から、八千代市の名勝・名産物などの紹介と管内における住宅火災の発生状況や件数などを踏まえた挨拶があり、八千代市のイメージキャラクターの「やっち」と消防庁イメージキャラクターの「消太くん」も参加しスタートしました。

まず、特別救助隊訓練によりロープ渡過訓練や座席降下訓練などの実演が披露されました。

山形弁研究家のダニエル・カールさんが、



オープニング撮影風景

はしご車搭乗訓練に参加しバスケットに搭乗して約30メートルの高さまでの伸梯を体験しました。

続いて、消防隊員による水槽付きポンプ自動車からのホース延長と放水訓練が行われ、その後、ダニエル・カールさんによる放水体験訓練が行われました。

また、八千代市東消防署内に設営された住宅防火対策推進協議会のブースでは、(一社)日本火災報知機工業会から住宅用火災警報器の定期的な作動点検のチェックの重要性について紹介しました。(一社)日本消火装置工業会からは、住宅用スプリンクラーは新築の時に取り付けるとコストが安価となることの紹介、(一社)日本消火器工業会からは、軽くて高齢者でも使いやすい住宅用消火器の紹介、ガス警報器工業会からは火災にいち早く気づくCO検知付き警報器などについての紹介がそれぞれ行われました。

この模様は、J：COMチャンネル八千代で3月28日(土)、29日(日)の2日間、19時30分から30分番組として放送されました。



ロープ渡過訓練



ダニエルさんはしご車登場訓練風景



ダニエルさん放水体験訓練風景



(一社)日本火災報知機工業会展示風景



エンディング撮影

◎栃木県那須地区消防本部「那須塩原市黒磯婦人防火クラブ連絡協議会の活動紹介と住宅用防災機器等の紹介」

令和2年10月19日（土）に那須地区消防本部において、那須塩原市黒磯婦人防火クラブ連絡協議会の活動と住宅用防災機器等の紹介番組の撮影を行いました。

オープニングでは、室越孝那須地区消防本部参事兼予防課長から那須地区消防本部管内の火災の発生状況や住宅防火への取り組みが紹介されました。

那須塩原市黒磯婦人防火クラブ連絡協議会の活動紹介では、木沢トモ子会長から協議会の組織（黒磯、鍋掛、東那須野、高林）、組織数（155支部）、人数（25,876名）についての紹介につづいて、協議会の年間の主な活動として、消火競技会への参加、那須塩原市消防団黒磯支団消防操法競技会、消防まつりへの協力、女性による防火防災訓練の開催、クラブ員の一泊研修会の実施、一人暮らしの高齢者宅の訪問、那須野巻狩まつりへの参加など様々な活動が展開されていることの紹介が



オープニング撮影風景



木沢トモ子会長撮影風景

ありました。

さらに、防火・防災訓練では、地域の防火・防災意識の向上を目的として、約500名の方に参加いただき、消火訓練、救出搬送訓練、応急手当訓練、通報訓練、土嚢（どのう）作成訓練などを行っていることの紹介がありました。

火災予防運動中には、一人暮らしのお年寄りのお宅を訪問して、火災予防広報活動を行い、住宅用火災警報器の確認や設置してあることが一目でわかる「住宅用火災警報器設置済みシール」を貼り付ける活動を行っていることの紹介、また、災害支援活動として、東日本大震災では避難者への炊き出し（延べ3,000食）支援などを行った紹介がありました。

さらには、住宅用火災警報器の共同購入など住宅用火災警報器の設置率の向上に努めている紹介がありました。

住宅用防災機器の展示紹介コーナーでは、（一社）日本消火器工業会、（一社）日本消火装置工業会、（一社）日本火災報知機工業会、（公財）日本防災協会、ガス警報器工業会による展示が行われ、各コーナーの紹介が大田原女性防火クラブ会長の郷 志保さんと那須町婦人防火クラブ連絡協議会会長の渋井美智枝さんにより行われました。

このうち、（一社）日本火災報知機工業会からは住宅用火災警報器の電池切れや電池交換サインを確認するための「住宅用火災警報器交換診断シート」について紹介があり、そのほかにも住宅用消火器、住宅用スプリンクラー、ガス警報器、防災品について紹介が行われました。

屋外においては、大田原消防署の消防ポンプ車、化学消防ポンプ車、高規格救急車、救助工作車などに装備されている特殊な資機材について紹介が行われました。



婦人防火クラブ活動風景



婦人防火クラブ活動風景



東日本大震災の活動風景



(一社)日本火災報知機工業会展示風景



(一社)日本消火器工業会展示風景

最後に、特別救助隊によるはしご車を使用
しての建物からの救出訓練が披露され、要救
助者役のダニエル・カールさんを5階屋上か
らバスケットによって救出する訓練が行われ
ました。



救助工作車の紹介風景



はしご車による救出訓練風景



はしご車による訓練風景

この番組は、(株)とちぎテレビで、11月28日(土)10時30分から30分番組で放送されま
した。

検定協会だより 令和3年1月

◎神奈川県座間市消防本部「消防本部の活動紹介と住宅用防災機器等の紹介」

令和2年11月14日（土）、座間市消防本部において、広く市民に対して防火防災思想の意識高揚を図るとともに、住宅用防災機器等の展示・広報を実施し、住宅用火災警報器の設置率の向上を図り、安全安心なまちづくりをPRすることを目的に消防本部の活動と住宅用防災機器の紹介の撮影を行いました。

オープニングでは、佐藤^{みと}弥斗座間市長から、座間市は湧水が有名なところで市内のいたるところでおいしい水が湧き出していること、また、夏には相模川河川敷いっばいに咲くヒマワリが有名であり、それにちなんだ座間市イメージキャラクターの「ざまりん」が紹介されました。さらに、毎年5月の連休に行われる「大凧まつり」が有名であることの紹介が行われました。

また、山田淳消防長からは管内の火災の発生状況などが紹介されました。

まず、佐藤市長とダニエル・カールさんによる119番通報訓練と初期消火訓練が行われました。佐藤市長が火災を発見して、ダニエル・カールさんが119番通報するという一連の流れで、火災の発見から通報までのとるべき行動が二人の連携で示されました。

次に、消防ポンプ車、水槽付き化学ポンプ車、救助工作車の紹介、さらに災害対策用ドローン2機を、高所からの災害現場の撮影や相模川などでの溺者の救助に役立てていることの紹介がありました。

消防隊と救助隊による訓練は、マンション火災を想定した消火・救助訓練で、4階から出火して5階に延焼中で、ベランダに逃げ遅れ者が取り残されているとの設定で行われました。消防隊が4階に向けての放水をして、



座間市消防本部の前で撮影



119番通報訓練



初期消火訓練

特別救助隊員がはしご車のバスケットにより逃げ遅れた者を5階から救出する訓練が行われました。

住宅用防災機器の展示紹介コーナーでは、(一社)日本消火器工業会、(一社)日本消火装置工業会、(一社)日本火災報知機工業会、(公財)日本防災協会、ガス警報器工業会の展示が行われ、各コーナーの紹介を鈴木美典座間市消防本部予防課長が行いました。

(一社)日本火災報知機工業会からは、住宅用火災警報器は10年を目安にして本体ごと交換をお勧めすることや電池交換サインを確認するための「住宅用火災警報器交換診断シート」の紹介がありました。

(一社)日本消火装置工業会からは、火災を拡大させないための住宅用スプリンクラーは、家庭の水道配管を使用しての設備で、新築時に設置すると比較的安価に設置できることの紹介がありました。



座間市ドローン



消防隊・救助隊による消火・人命救助訓練



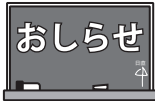
(一社)日本火災報知機工業会展示風景



(一財)日本消火装置工業会の展示風景

エンディングでは、山田消防長から座間市の安心・安全なまちづくりのPRと隣接するキャンプ座間との連携等が紹介されました。

この番組は、J:COMチャンネル神奈川で、12月26日(土)17時00分から30分番組で放送されました。



有効期限を経過した受託評価品目

【消防用ホース】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の 終期日
H0324FC08A	H27.10.28	東京都中央区日本橋二丁目5番1号	帝国繊維株式会社	R2.10.27
H0324FC09A	H27.11.2	東京都中央区日本橋二丁目5番1号	帝国繊維株式会社	R2.11.1

【非常警報設備・スピーカー】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の 終期日
認評放第27～13号	H27.11.2	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.1
認評放第27～14号	H27.11.2	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.1
認評放第27～15号	H27.11.2	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.1
認評放第27～16号	H27.11.2	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.1
認評放第27～17号	H27.11.2	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.1
認評放第27～20号	H27.11.5	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.4
認評放第27～21号	H27.11.5	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R2.11.4
認評放第22～6号	H22.11.10	大阪府門真市大字門真1006番地	パナソニック株式会社	R2.11.9
認評放第22～7号	H22.11.10	大阪府門真市大字門真1006番地	パナソニック株式会社	R2.11.9
認評放第22～8号	H22.11.10	大阪府門真市大字門真1006番地	パナソニック株式会社	R2.11.9

【非常警報設備・増幅器及び操作部】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の 終期日
認評放第18～12～1号	H22.11.25	大阪府門真市大字門真1006番地	パナソニック株式会社	R2.11.24

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■業界の動き■■

- 会議等開催情報 -

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第8回 技術委員会

（令和2年12月14日 対面・Web併用会議）

- ・天ぷら油火災について
- ・検定細則等について
- ・令和3年度会議日程について

○第9回 企業委員会

（令和2年12月18日 書面会議）

- ・消火器の申請・回収状況
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告
- ・東京消防庁予防技術研修の依頼について
- ・重要文化財等防災施設等指針策定に係る協力者会議について

○第4回 理事・総務合同会議

（令和2年12月23日 書面会議）

- ・消火器等の申請・回収状況
- ・令和2年度4～11月収支報告
- ・機器協会会議報告
- ・令和3年度 機器協会会長表彰候補者選定
- ・令和3年度 社会貢献事業 住宅用消火器配布事業について
- ・PFOAについて

- ・重要文化財等防災施設等指針策定に係る協力者会議について
- ・令和3年度 年間スケジュールについて

◆（一社）日本消火装置工業会◆

○第191回「第一部技術分科会」

（令和2年12月18日 日本消火装置工業会）

- ・フート弁の圧損値について
- ・水道連結型スプリンクラー設備耐震巻き出し管等の情報について
- ・文化財における水系消火設備の施工要領等について
- ・ハウジング型継手の軽易耐熱性試験について
- ・その他

○第186回「第二部技術分科会」

（令和2年12月17日 日本消火装置工業会）

- ・「P F O S 含有泡消火薬剤の更新を検討する際の注意点について」に関するリーフレットの修正について
- ・消火設備の維持管理についてのたん白泡消火薬剤の交換推奨年数等について
- ・P F O S 処理施設紹介資料の修正について
- ・50周年記念誌の内容について
- ・その他

協 会 通 信

◆（一社）日本消防ポンプ協会◆

○総務委員会

（令和2年12月21日 書面会議）

- ・予算案について
- ・事業計画書案について
- ・令和3年度第59期定期時総会の開催方法について
- ・令和3年度日本消防ポンプ協会功労者表彰式、同祝賀会等について
- ・その他

○シャシ部会

（令和2年12月14日）

- ・運営について
- ・その他

○小型技術委員会

（令和2年12月23日 Web会議）

- ・運営について
- ・今後の予定
- ・その他

人事異動

◆日本消防検定協会◆

○令和3年1月1日付

(氏名)	(新)	(旧)
前原 三輝	企画研究部企画研究課 主幹検定員	企画研究部企画研究課 主任検定員
巴 正博	警報設備部感知設備課 主幹検定員	警報設備部感知設備課 主任検定員
山本 南希	警報設備部感知設備課 主任検定員	警報設備部感知設備課 検定員
小寺 杏子	消火・消防設備部消火設備課 主任検定員	消火・消防設備部消火設備課 検定員
駒井 晴果	消火・消防設備部消防設備課 主任検定員	消火・消防設備部消防設備課 検定員
深井 康功	大阪支所検査課 主任検定員	大阪支所検査課 検定員

協 会 通 信

検定協会だより 令和3年1月

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認 年月日
小型消火器	消第 2020～14号	三津浜工業 株式会社	住宅用強化液 1.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～15号	三津浜工業 株式会社	強化液 2.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～16号	三津浜工業 株式会社	強化液 3.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～17号	三津浜工業 株式会社	強化液 6.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～18号	三津浜工業 株式会社	強化液 8.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～19号	日本ドライケミカル 株式会社	強化液 2.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～20号	日本ドライケミカル 株式会社	強化液 3.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消第 2020～21号	日本ドライケミカル 株式会社	強化液 6.0l (蓄圧式、鉄製)	R2.11.24
	消自第 2020～1号	三津浜工業 株式会社	強化液 3.5l (自動車用) (蓄圧式、鉄製)	R2.11.30
	消自第 2020～2号	日本ドライケミカル 株式会社	強化液 3.5l (自動車用) (蓄圧式、鉄製)	R2.11.30
泡消火薬剤	泡第 2020～6号	DIC株式会社	水成膜泡 (5パーセント型高発泡用) (-10℃～+30℃)	R2.11.24
熱アナログ式スポット型 感知器 (試験機能付)	感第 2020～33号	日本フェンオール 株式会社	(24V、0.5mA)・公称感知温度40℃～ 85℃、非防水型、普通型、再用型	R2.12.7
	感第 2020～34号	日本フェンオール 株式会社	(24V、0.5mA)・公称感知温度40℃～ 85℃、防水型、普通型、再用型	R2.12.7
R型受信機 (蓄積式 及び遠隔試験機能付)	受第 2020～6号	パナソニック 株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω、公称蓄積時 間60秒	R2.12.10
一斉開放弁	開第 2020～3号	ヤマトプロテック 株式会社	減圧型50 (10K、横)	R2.11.10

型式変更承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認 年月日
P型1級受信機 (蓄積 式及び自動試験機能 付)	受第 23～1～4号	ニッタン株式会社	交流100V、外部配線抵抗50Ω、公称蓄積時 間60秒	R2.12.10

品質評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
外部試験器	品評外第 2020～1号	パナソニック 株式会社		R2.11.18
動力消防ポンプ	P100B	トーハツ株式会社	可搬消防ポンプ、B-3、V2501	R2.12.7
	P1065	トーハツ株式会社	可搬消防ポンプ、C-1、V2501	R2.12.7
	P2107	帝国繊維株式会社	可搬消防ポンプ（フロートポンプ式）、0.70型、HFS1510	R2.12.8
特殊消防ポンプ自動車 又は特殊消防自動車 に係る特殊消火装置	NWTP-15-1	日本機械工業 株式会社	水槽付消防ポンプ自動車	R2.11.18
	MT-20-10	株式会社モリタ	水槽付消防ポンプ自動車	R2.11.26

認定評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
非常警報設備・ 遠隔操作器	認評放第 2020～12号	パナソニック 株式会社	DC24V	R2.11.17
非常警報設備・ スピーカー	認評放第 2020～13号	TOA株式会社	複合型（7.5W/15W/30W/60W・L級）、 音響パワーレベル98dB	R2.11.17
	認評放第 2020～14号	日本電音株式会社	ホーン型（10W/20W/25W/30W・L級）、 音響パワーレベル107dB	R2.11.17
	認評放第 2020～15号	TOA株式会社	コーン型（1W・M級、3W・L級）、音響パ ワーレベル91dB	R2.11.30

認定評価 型式変更評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
非常警報設備・表示灯	認評非第 2020～9～1号	ホーチキ株式会社	普通型（DC/AC24V、15mA）	R2.11.5
	認評非第 2020～10～1号	ホーチキ株式会社	防雨型（DC/AC24V、15mA）	R2.11.5

特定機器評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
特定初期拡大抑制機器	特評第276号	ヤマトプロテック 株式会社	特定駐車場用泡消火設備 泡消火薬剤混合装 置（希釈容量濃度3%）	R2.12.9

検定協会だより 令和3年1月

検定対象機械器具等申請一覧表

種別	型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定				
			申請件数	申請個数	対前年 同比(%)	対前年 累計比(%)	
消火器	大型	0	0	18	2,660	146.9	108.3
	小型	1	0	60	466,555	119.2	99.0
消火器用消火薬剤	大型用	0		2	40	76.9	68.7
	小型用			12	9,387	79.2	94.1
泡消火薬剤		0		43	352,320	245.6	110.1
感知器	差動式スポット型	3	0	43	349,693	123.2	100.3
	差動式分布型	0	0	13	7,325	99.5	88.4
	補償式スポット型	0	0	0	0	-	240.0
	定温式感知線型	0	0	1	100	皆増	100.0
	定温式スポット型	5	0	37	143,670	103.1	102.0
	熱アナログ式スポット型	0	0	13	7,512	66.4	94.5
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	1	250	皆増	94.5
	光電式スポット型	0	0	42	133,791	69.7	92.6
	光電アナログ式スポット型	0	0	18	40,163	65.5	84.0
	光電式分離型	0	0	3	330	120.0	110.8
	光電アナログ式分離型	0	0	1	100	69.4	78.3
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	皆減	325.6
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	87.9
	紫外線式スポット型	0	0	2	200	80.0	152.1
	赤外線式スポット型	1	0	10	893	118.4	87.3
	紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	0	0	-	91.6
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	14	23,850	115.9	108.6
	P型2級	0	0	7	3,766	70.6	115.4
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		4	0	92	40,569	89.0	94.4
受信機	P型1級	0	0	50	2,928	99.0	93.9
	P型2級	0	0	19	5,110	95.2	75.5
	P型3級	0	0	0	0	-	皆増
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	7	59	50.9	88.8
	G型	0	0	5	11	122.2	60.6
	GP型1級	0	0	15	47	151.6	85.6
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	15	30,736	90.6	76.3
GR型	2	0	16	259	113.1	90.3	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		0	0	38	153,839	67.9	75.8
流水検知装置		0	0	33	1,545	71.0	108.1
一斉開放弁		0	0	18	1,023	69.9	57.3
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	1	30	250.0	113.1
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	26	14,380	91.7	78.5
緩降機		0	0	3	460	82.1	73.7
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	34	99,718	100.5	76.1
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	1	0	50	303,340	60.8	93.6
合計		17	0	762	2,196,659	99.7	94.0

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。
 ※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。
 ※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年同月比(%)	対前年累計比(%)	
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-	
音響装置	0	0	0	2	304	60.8	79.0	
予備電源	0	0	0	2	16,168	88.8	83.4	
外部試験器	0	0	0	5	132	86.3	120.0	
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	0	0	0	皆減	124.8
	受信装置等	0	0	0	0	0	-	50.0
光警報装置	光警報装置	0	0	0	0	0	皆減	17.6
	光警報制御装置	0	0	0	0	0	皆減	175.0
屋外警報装置	屋外警報装置	0	0	0	0	0	-	-
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	0	-	-
消火器加圧用ガス容器	0	0	1	1	10,000	20.0	69.6	
蓄圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	6	439,000	89.4	92.7	
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	3	1,600	32.0	90.8	
消火設備用消火薬剤	0	0	0	8	45,163	47.6	84.2	
住宅用スプリンクラー設備	構成部品	0	0	0	0	0	-	-
	消防ポンプ自動車	1	2	81	167	94.9	97.4	
消防用吸管	可搬消防ポンプ	0	0	5	344	113.5	100.7	
	呼称65を超えるもの	0	0	4	774	147.4	81.7	
消防用ホース	呼称65以下のもの	0	0	2	50	166.7	88.9	
	平 40を超えるもの	5	0	17	28,595	74.5	97.3	
	平 40以下のもの	0	0	16	35,892	85.0	107.2	
	濡れ	0	0	1	5	皆増	皆増	
	保形	0	0	5	7,000	83.3	94.2	
消防用結合金具	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	127.3	
	差込式	2	0	30	70,712	87.2	98.4	
	ねじ式	0	0	15	7,465	49.5	84.6	
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	皆減	
漏電火災警報器	同一形状	0	0	4	1,004	200.8	273.3	
	変流器	0	0	10	3,675	86.3	85.2	
受信機	0	0	7	2,945	85.9	78.6		
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	1	19,980	74.9	162.2	
特殊消防ポンプ自動車	2	1	57	62	117.0	102.4		
特殊消防自動車			4	4	44.4	105.6		
可搬消防ポンプ積載車	0	0	2	3	37.5	100.0		
ホースレイヤー	0	0	2	2	33.3	72.0		
消防用積載はしご	0	1	10	278	89.7	106.7		
消防用接続器具	0	1	14	3,429	67.5	86.7		
品質評価業務				確認評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年同月比(%)	対前年累計比(%)	
外部試験器の校正				11	41	146.4	115.2	
オーバーホール等整備				7	7	87.5	97.8	

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

令和2年12月

認定評価業務		型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
					依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
地区音響装置		1	0	0	35	30,129	108.6	104.9	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	2	0	2	47	5,526	85.9	95.4	
	放送設備	0	0	3	72	90,044	48.6	72.6	
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	0	-	-	
構成部品		0	0	0	0	0	-	-	
総合操作盤		0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	0	9	1,851	64.0	87.1	
	2号消火栓	0	0	0	5	1,330	60.3	78.1	
	広範囲型2号消火栓	0	0	0	7	443	61.5	98.3	
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-	
	ノズル	0	0	0	20	7,132	61.9	89.5	
認定評価業務		装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等		消防用ホースと結合金具の装着部	0	1	15	83,171	172.9	100.2	
認定評価業務		型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備		0	0	0	13	4,870	30.6	59.9	
認定評価業務		総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備(評価)		0							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置		0	0	0	12	12	100.0	64.9	
特定機器評価業務		総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等		0	1	1	0	11	17,624	111.0	112.4
受託試験及びその他の評価		依頼件数			依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
受託試験(契約等)		0							
受託試験(その他の契約等)					2	2	66.7	73.7	
評価依頼(基準の特例等)		3							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

2021年、令和3年の干支は丑年であり、「我慢(耐える)」や「発展の前触れ(芽が出る)」を表す年になると言われているようです。

12年前の2009年(平成21年)には揮発油税などの道路特定財源の一般財源化や初めての政権交代などがあり、24年前の1997年(平成9年)には消費税率の5%への引上げや世界初となる量産型のハイブリット自動車の国内販売などがありました。少し飛んで48年前の1973年(昭和48年)はオイルショックであり、まさに我慢を象徴する年でした。

昨年の菅総理の所信表明演説で、「成長戦略の柱に経済と環境の好循環を掲げて、グリーン社会の実現に最大限注力してまいります。我が国は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロ

にする、すなわち、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」との目標が明確に宣言され、さらに、世界的な流れではありますが、我が国でもこれに呼応した「純ガソリン車新車販売規制」などの動きもでてきました。今後の動向に注目です。

さて、今月号では、消防庁長官の横田真二様をはじめ、全国消防長会会長の安藤俊雄様、関係工業会の各代表の皆様には新年のご挨拶を、住宅防火対策推進協議会(一般財団法人日本防火・危機管理促進協会)からは「ケーブルテレビ等による住宅防火広報について」をご寄稿いただき誠にありがとうございました。

2月号では、千葉県消防局長の中村由明様には巻頭のことばを、消防庁総務課からは「令和3年度消防庁予算案の概要と令和2年度消防庁補正予算の概要について」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

- (1) 消防用機械器具等の不作動、破損等、性能上のトラブル例

- (2) 消防用機械器具等の使用例(成功例又は失敗例)

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471(直通)
E-mail
<kikenka@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<http://www.jfeii.or.jp>



本 所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大 阪 支 所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル4階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル16階
TEL 03-5962-8901 FAX 03-5962-8905

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。

e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415

